



観光施設メディアラボ

公益社団法人国際観光施設協会編



株金剛組 取締役東京本店長
櫻井 輝明



貝の口継ぎ・小口

連載

SERIES

弊社の社寺建築には飛鳥時代から連綿と継承された「匠の技」と「匠の心」がございます。まず「匠の技」から紹介させていただきます。

「匠の技」(1)

差し金と現寸図

宮大工が自らの手で描く1/1の現寸図に、差し金を駆使し屋根



宮大工現寸作成

の曲線部分や納まりを描いて、型板をつくり、それを材木に当てて仕上げていきます。そこには現場で調整して合わせるという安易な妥協はありません。社寺建築は別名「屋根の建築」と言われる由縁でもあります。

「匠の技」(2)

継手仕口・手加工

社寺建築では釘や金物に頼らない技法があります。斗組の接合においては「木ダボ」を、また部材と部材をつなぐには、「継手仕口」を用います。この技法を用いることにより後世の修復・復元が可能となっています。柱などでは傷んだ箇所だけ新しい部材に取り替えることを「根継ぎ」と言いますが、

継手仕口には先人の知恵が凝縮されています。手加工のこだわり、鑿や鉋と言われる刃物を扱う技術の習得があって、継手仕口の精度が上がります。宮大工であっても刃物研ぎは基本中の基本となります。

また、材木に対する気くばりも重要です。中でも乾燥は重要な項目の一つです。乾燥していない材木を使用しますと、材木の収縮により接合部分に隙間が生じます。後々の不具合の原因を取り除くため、弊社では御用材を加工場で十分に乾燥させる期間を設けます。

「匠の心」

宗教建築に携わる弊社の存在意義は「教えをわきまえ仕事に当た

伝統建築へのホスピタリティ 1400年の歴史を紡ぐ、「心と技」の融合

(株)金剛組 取締役東京本店長

櫻井 輝明



鉋かけ

り、心の修養と安らぎをもたらす建物を提供する」と企業理念に謳われています。我々が造る建物は神様や仏様が入れられる信仰の場です。建物自体も信仰の対象になると教えられています。実際、工事中であっても道行く方が合掌されているお姿を拝見することがありますが、身の引締まる思いとともに、責任の重さも痛感いたします。いつの時代においても誰に観られても恥ずかしくない魂のこもった仕事を継続していくことが使命であると肝に銘じ、社員はもちろんのこと、協力業者の皆様方と一緒に、業務に取り組んでおります。

2020年には日本の伝統的な社寺建築の保存、修理、装飾に関する技術の17分野が「伝統建築工匠の技、木造建築物を受け継ぐた



乾燥場



宮大工道具

めの伝統技術」としてユネスコの無形文化遺産に登録されました。弊社でもそれに呼応して、宮大工の技術の伝承と育成を主眼とした「匠育成塾」を開塾いたしました。コロナへの対応が変更となった今日、国内外を問わず宗教施設を訪れる全ての方々に、「心の修養と安らぎを感じていただける建物」を

提供させていただきたいと思えます。これこそが弊社の考えるホスピタリティであると思えます。今後とも「匠の技」と「匠の心」を磨きながら歴史を紡いでまいります。

※(株)金剛組は飛鳥時代(西暦578年)に創業した世界最古の企業といわれています。社寺専門の建築業者で国宝・文化財等も手掛けている。



法被

連載

SERIES